

- ・表紙「令和6年度安曇野市文化祭」…… p.1
- ・安曇野を知る1枚「千国街道の保高宿」… p.1
- ・地域文化祭（穂高・三郷） …… p.2
- ・地域文化祭（堀金・明科） …… p.3
- ・地域文化祭（豊科） …… p.4
- ・地域運動会（豊科・三郷・堀金） …… p.4



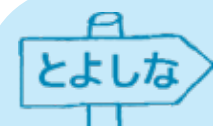
令和6年度安曇野市文化祭



安曇野市内5公民館で10月11日から11月17日にかけて作品展示・菊花展・芸能発表会・ピアノリレーコンサートなどが開催され、多くの人が訪れた。この展示作品の中から選ばれた作品が、3月6日から14日に豊科交流学习センター「きぼう」で開催される安曇野市総合芸術展で展示される。

安曇野を知る1枚 ちく に 千国街道の保高(穂高)宿

安曇野を南北に走る千国道（千国街道）は、「塩の道」とも呼ばれる。上杉謙信が武田信玄の窮地に塩を送ったという有名な話は史実であるかは不明だが、古い時代から糸魚川と松本を結び、生活に欠かせない塩などを運ぶ重要な道であったことは確かである。江戸時代松本藩の頃には街道も整備され、現在の八十二銀行穂高支店前は保高（穂高）宿として栄えた。



「第20回豊科地域文化祭」が2か所の会場で10月25日から11月10日まで行われた。

【豊科公民館会場】

一般展示（10月25日～27日）は、写真・絵画・手工芸・彫刻等を展示。どのブースも様々な想いが込められた作品で溢れていた。

菊花展（10月26日～11月4日）は公民館西側で開催。今年は異常な暑さで育成が難しい中、「楽しい菊づくり講座」の受講生を中心に14名204鉢の作品が出展され、会場を訪れた多くの人を魅了していた。大輪の部では坂内不二男さんが最優秀賞を受賞した。



芸能発表会（11月3日）はホールで開催。あづみ野太鼓保存会による演奏に始まり、初出場の

団体を含む全18団体が出演し、会場は大いに盛り上がった。ホール玄関ホワイエでは、コロナ後5年ぶりにお茶席が設けられ煎茶が振る舞われた。



ピアノリレーコンサート（11月4日）はホールで開催。今年はジュニアの出演が少なかったが、17組24名が発表を行った。様々なジャンルの曲をピアノ独奏や連弾、アンサンブルなどで演奏された。ひとたび演奏が始まると皆その曲の世界に引き込まれていき、演奏が終わるたびに会場は大きな拍手でいっぱいになった。

短歌大会(11月9日)は11人から出詠があり、歌会が行われた。

俳句大会(11月10日)は一般の部には27名の投句があり、役員による互選で入賞句が発表された。

【豊科交流学习センター「きぼう」会場】

一般展示（11月2日～4日）は書道・華道・フラワーアレンジメント・拓本・水墨画が展示された。どの作品も力作で、会場を訪れた人たちは作品を一つ一つじっくり鑑賞していた。本会場でもお茶席が設けられ抹茶が振る舞われた。



【豊科地域運動会】

10月13日県民豊科運動広場にて、6年ぶりに「第19回豊科さわやか市民運動会」が開催された。これまでとプログラムを大きく変え、子どもから大人まで大勢が参加した。会場には笑顔と笑い声が溢れ、大いに楽しむ姿がみられた。



【三郷地域運動会】

10月20日三郷祭のメインイベントとして「運動会」が開催された。大変寒い一日となったが、9つの競技・種目にのべ1,200人の参加があり熱戦が繰り広げられた。運動会は、コロナ明けで内容をリニューアルして2回目の開催となった。



【堀金地域運動会】

10月13日堀金地域市民運動会が実行委員会により開催された。世代や活動業種を超えて、地域コミュニティーの活性化と健康、体力づくりの機会として参加しやすくするために、午前9時に開始して12時に終了する7種目で実施した。



編集後記

◆秋の文化祭、運動会を取材。例年の事とは言え、参加の皆さんはもちろん運営に携わった多くの関係者の力が集約されて開催できている。この事に改めて感謝し、日常の営みが普通に積み重なっていく事にありがたみを感じる。(M・M)

◆暦の上で季節を分けた春夏秋冬の縮尺は、計算上の思惑通りにはいかなくなってきた。人を取り巻く環境も社会情勢もめまぐるしく変わる世の中に流されず取り残されない立ち位置を見極める目を持ちたいものだ。(T・Y)

【地域文化祭】



堀金地区では「作品展・芸能祭」が11月1日から3日間、「駅伝大会・ロードレース大会」が11月17日に開催された。

【作品展】

堀金総合体育館メインアリーナで、俳句会・短歌会・書道・写真・生け花・フラワーアレンジメントや郷土史の研究等が展示された。子ども園・小中学生・クラブや教室・福祉施設等の作品コーナーがあり、地区公民館の部では、木の皮細工の花瓶やゴールドビーズの布工芸品が注目を集めていた。常念フェスティバルで豊科高校書道部が披露した書道パフォーマンスの作品が展示され、揮毫した丸山未遙さん（堀金）は堀金公民館の推奨する挨拶を主題にした。



【芸能祭(芸能発表会)】

サブアリーナで2日に、和太鼓・ダンス・フラダンス・文化箏・オカリナ・横笛・詩吟・



舞踊・民謡・合唱・コーラス・フォークソング・ペプサート劇の部門に各グループが出演した。和太鼓の「堀金常念太鼓」は「童」



「女雅美」「保存会」の3チームが演舞し、童謡唱歌を歌う公民館講座が心の歌メドレーを歌い、「駒の会」の演奏で堀金音頭が披露された。

【堀金駅伝大会・ロードレース大会】

60回を重ねた記念大会を拾ヶ堰周辺コースで開催した。34回出場の大記録を誇るレジェンド丸山純一さん他、複数回出場者が表彰された。駅伝では中堀地区が優勝した。



「第20回穂高文化祭」が10月11日から11月17日の間に穂高会館と穂高神社の2会場で開催された。

【穂高会館会場】

10月25日から27日に「総合美術展」「芸能まつり」「高齢者作品展」が開催された。

アリーナの「総合美術展」では、彫刻・絵画・書道・押し花・写真・生け花・ひょうたん作品・わらかご・ステンレス彫刻、また安曇野の田園を潤す用水「拾ヶ堰」の紹介や穂高地域の小中学生や有明高原寮・穂高悠生寮の美術作品など、



様々な展示が会場を埋め尽くしていた。他にお茶席やあづみ野ビデオクラブのビデオ上映もあり、盛りだくさんで



あった。講堂の「芸能まつり」では、25日には「カラオケ発表会」が開催された。26日の「芸能まつり第一部」では歌謡吟詠・舞踊・太極拳・民謡・フラ・エ

アロビックなどが観客を楽しませていた。27日の「芸能まつり第二部」では、合唱・オカリナ演奏・ジャズ・アルプホルン・フルート・三味線・和太鼓・金管合奏などの演奏が超満員の観客を魅了していた。

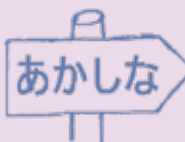
「高齢者作品展」では、盆栽と菊花・絵画・書・写真・手工芸の多数の力作が発表されていた。



【穂高神社会場】



10月11日から14日に「盆栽・山野草展」が、10月28日から11月17日に「穂高人形展」が、11月1日から11月17日に「あづみ野菊花展」が開催された。



「明科地域文化祭」が11月1日から3日間開催された。

明科公民館の入り口には今年も「菊づくりの仲間たち6人」による華やかな菊花が飾られた。階段正面には明科の子どもたちが多く通う順子書道教室による書道パフォーマンス。子どもたちが書き上げた幅6m×縦3mの真紅の書は圧巻だった。



2日目は強い雨に降られたが、講堂で開催された「お楽しみサロン」では「ひまわりキッズ」や「MABU」などによる恒例のダンスや演奏が披露された。



最終日の「芸能発表会」では、トップバッターとして明北・明南両小学校の金管バンド部によるパフォーマンスが行われた。両校合わせて約50名の児童の保護者らが応援に駆けつけ、10時からの演奏開始前には150組ものスリッパがなくなり、立ち見が出るほどの盛況ぶり。多く



の観客に見守られる中、「銀河鉄道999」や「ダンスホール」など懐かしい曲から最新の曲までが披露された。

1階・2階の展示会場では、地元の児童・生徒や有志による木工作品・絵画・編み物・写真・書道などが飾られた。すべての展示会場を巡るとご褒美がもらえるスタンプラリーが実施され、100人以上の子どもがお菓子のつかみどりを楽しんだ。

また、1階ホールにオープンした「安曇野あかしな農産物加工交流ひろば『えべや』」によるミニ喫茶も大変好評で、昼頃には用意されたおやきや五平餅・おまんじゅうが完売となった。荒天の日があったにもかかわらず、3日間で延べ500人を超える来場者となった。



三郷地域では、10月12日から11月15日にかけて「文化産業展」「運動会」「ふれあいコンサート」「菊花展」の一連の催しが「三郷祭」として開催された。

【芸術の秋真っ只中「文化産業展」】

10月12日から14日の文化産業展では、公民館の講堂・ロビーに473の団体・個人から635点の絵画・書・手工芸品・写真・生け花など様々なジャンルの力作が出品され一堂に展示された。また、企画展として小中学校児童生徒の書道や絵画、三郷南部認定こども園の年長による「運動会でがんばった自分の姿と好きな国旗」の絵が展示され、来場者の関心を集めていた。



【万感の思い響く「ふれあいコンサート」】

26日のふれあいコンサートは中学校講堂を会場に開催され、7つの団体が出演。日頃の練習成果を会場いっぱいに響かせた。小中学校の合唱部、小学校金管バンド部のほか一般からピアノとパーカッション・和琴・コカリナ・コーラスの団体が出演し、ジャズや懐メロ、アニメソング等と多彩だった。今日で3年生が卒業する中学校合唱部の合唱は、その透き通る歌声と余韻が会場を温かく包み込み、涙ぐむ生徒や保護者も見られた。



【力作そろそろ「菊花展」】

菊花展は公民館ロビーを会場とし、64点の小菊盆栽やダルマ菊などが来館者の目を楽しませた。出品者は、「冬越しに結構気をつかう」「それぞれのやり方に工夫がある」「一年通してお世話が必要」などと作り手の苦労を話し、また「今年も猛暑の影響があり、花の咲き方が遅く感じられた」とのことだった。

